

## 顕彰状

日比野弘氏は、1934年11月20日東京都中央区に生まれた。都立大泉高校時代から本格的にラグビーを始め、1954年早稲田大学教育学部に進学すると同時に、大西鐵之祐監督率いる早稲田大学ラグビー蹴球部の門をたたいた。存在感のあるプレーで1年生のシーズン3戦目からレギュラーポジションを獲得し、関東大学ラグビー戦制覇などで活躍した。1958年春ニュージーランド・コルツが来日した際には、全日本代表に選出され日本協会公認の初キャップを得るなど、在学時から輝かしい戦績を残している。

1958年東横百貨店に入社し、東京代表として全国社会人大会に出場を果たす。また、オックスフォード・ケンブリッジ両大学混成チーム、カナダブリティッシュコロンビアとの国際試合などでは全早稲田、全日本代表のウイングとしてプレーを続け、多くの観衆を魅了した。

1970年には早稲田大学ラグビー蹴球部監督に就任し、1971年、大学選手権のみならず日本選手権をも制覇し早稲田のラグビーファンを大いに沸かせた。続く1973年からは、8年間無傷の公式戦35連勝、関東大学対抗戦60連勝という栄えある記録を樹立する中核をなし、早稲田ラグビーの全盛期を築くことに大きく貢献した。このことは日本におけるラグビー人気を高め、その普及に大きな力となった。その後1981年からは本学の体育局および人間科学部で教壇に立ち後進の指導育成にあたりつつ、通算8期にわたり監督としてラグビー蹴球部を率いた。その指導は「勝利の三段論法」にもとづき極めて理論的で、目標の設定、計画の実践のプロセスに沿ったものであり、実に綿密な練習計画が基本となっていた。毎日のたゆまぬ練習の積み重ねにより、数々の栄光を勝ち取っていった。日比野氏は人あたりの柔らかさでも知られるが、その中にカリスマ的要素を併せ持つ指導ぶりは、部員から深く慕われ、厚い信頼を寄せられている。

日比野氏はまた、1976年に日本ラグビー協会からの要請を受け、日本代表監督に就任した。その後、3度にわたり監督を務める中で、積極的な海外遠征を行うなど日本ラグビーの発展および国際的な活躍に大いに寄与した。とくに1983年、国際的な強豪国の1つであるウェールズとの試合において24-29と善戦し、世界に日本ラグビーの名を轟かせたことは特筆すべきことである。

氏はまた、ラグビー理論およびラグビー史の分野の研究においても数多くの実績を残し、多くの書を著している。長年の指導経験にもとづいてコーチング論を展開した「ラグビーの指導体系における国際比較研究」、「ラグビーの指導体系のあり方についての比較研究」は、ラグビーにとどまらず他のスポーツの指導者にも大いに感銘を与えている。

ラグビー指導の第一線を退いた後も、一般社団法人日本体育学会理事、財団法人日本体育協会常務理事、公益財団法人日本ラグビーフットボール協会副会長など数々の要職を歴任するなど日本のラグビーフットボールの普及および選手の育成、競技力向上に多大な貢献をした。現在は日本ラグビーフットボール協会名誉会長、日本体育協会顧問および評議員選定委員長として日本スポーツ界の振興に尽力している。

このように日本スポーツ界の発展に献身的に尽くした功績により、2011年、公益財団法人日本体育協会・日本オリンピック委員会より「特別功労者」として表彰を受けた。続く2013年秋には、スポーツ振興功労者として「旭日中綬章」を拝受し、天皇陛下に拝謁の栄に浴した。

氏は選手、監督、また教育者、研究者という双方の視点により構築されたラグビー理論、コーチング論にもとづき日本のスポーツ界を牽引し、スポーツ振興に多大な寄与をなすとともに、後進の育成に尽力して多くの逸材を輩出した。

ここに早稲田大学は、日本のスポーツ界と早稲田大学への永年にわたる多大な貢献と献身に対して、日比野弘氏を早稲田大学スポーツ功労者として表彰し、永くその栄誉を讃えるものである。

2014年4月1日

早稲田大学